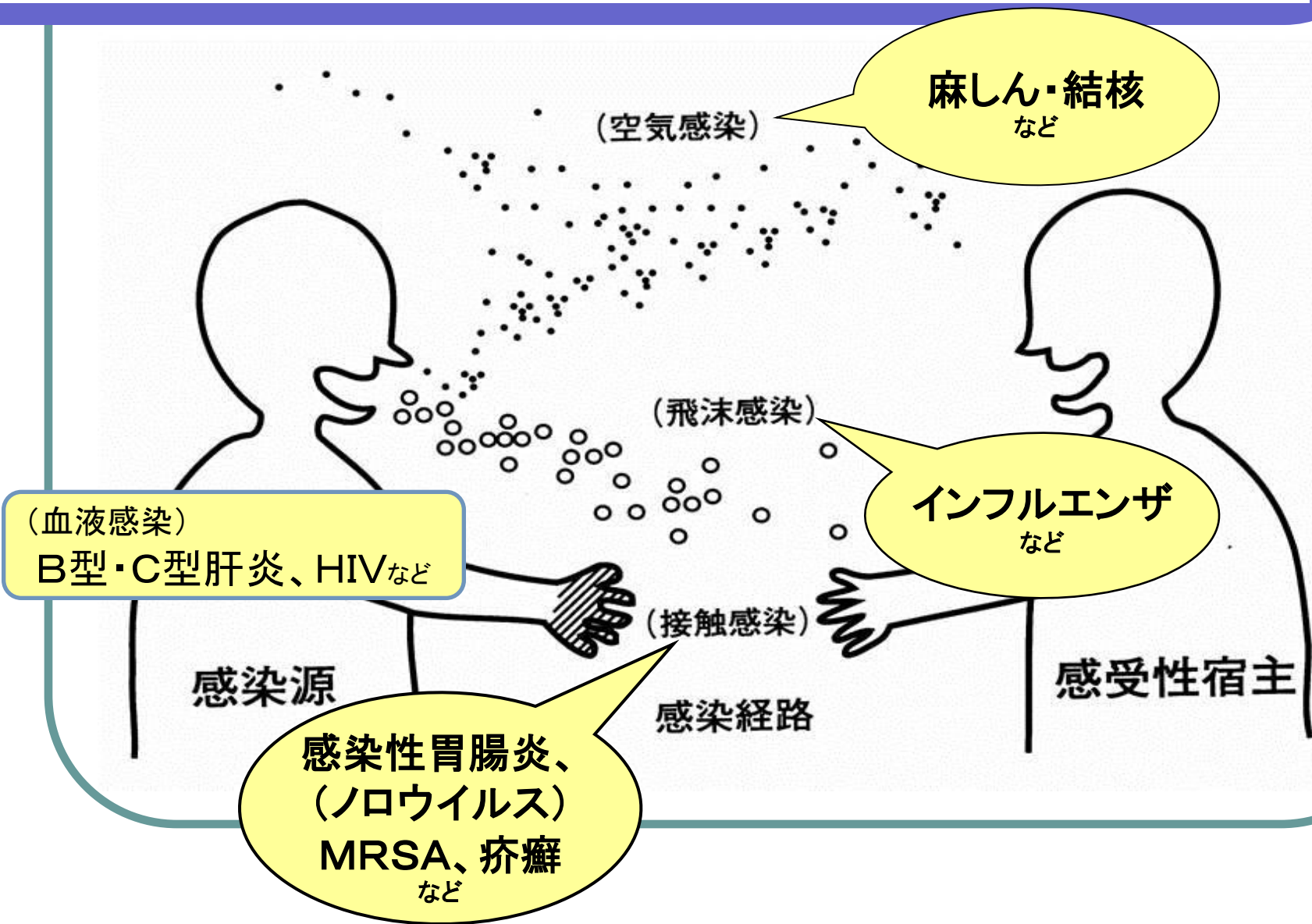




感染症の予防について

川越市保健所
保健予防課 感染症担当

いろいろな感染の仕方があります



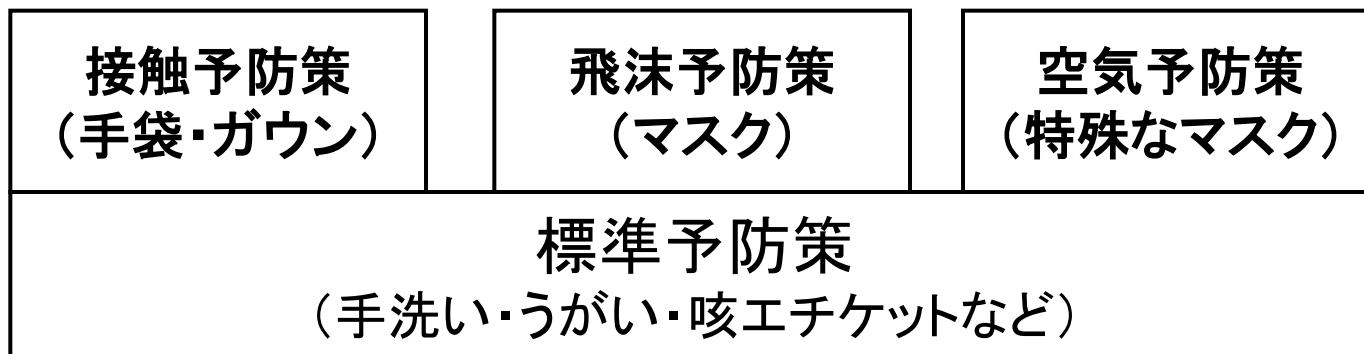
主な感染経路

- **接触感染**
 - 触ってうつる。大部分の細菌やウイルスがこの経路
- **飛沫感染**
 - 飛沫(くしゃみなどで出る「しぶき」)でうつる。インフルエンザや百日咳などの肺の病気など
- **空気感染**
 - 飛沫核(飛沫より小さな粒子)が空気中を漂ってうつる。結核や麻疹(はしか)など
- **経口感染**
 - 病原体に汚染された水や食べ物、手指などが口に入ることによってうつる。O-157やノロウイルス、食中毒など
- **血液感染**
 - 血液中の病原体が注射や傷口への接触などにより、体内に入ることによってうつる。B型肝炎、C型肝炎、HIVなど

感染予防

- 微生物の存在をなくす
- 微生物の増殖を抑える
- 感染経路を断つ
- 抵抗力を高める

☆総合的な感染予防策が大切です☆



標準予防策(スタンダードプリコーション)

微生物が存在する・しないに関わらず実施

1. 予防の対象

- | | | |
|-------------------|---|----------------------------|
| ①血液 | } | 従事者がそれらから病原体を得る恐れあり |
| ②体液、分泌物、排泄物(汗を除く) | | |
| ③障害のある皮膚(褥瘡や熱傷など) | } | 患者がそれらを通じて病原体を体内に入れられる恐れあり |
| ④粘膜 | | |

2. 接触があった場合

- ①必ず手洗いをする。
- ②接触する時は手袋を着用し、使用後は必ず手を洗うこと。
- ③顔面に飛散・接触すると思われるときは、マスク、眼鏡、フェイスシールドを使用すること。
- ④体に飛散・接触する時は、エプロンやガウンを着用すること。
- ⑤使用後の針はリキャップせず、所定の容器に捨てること。

感染予防

- 接触予防策

 - 手袋の着用

 - ガウンの使用

 - 個室管理または集団隔離

- 飛沫予防策

 - 「しぶき」を避ける

 - 1～2m以内に近寄らない

 - マスクの着用(場合によりゴーグルまたはフェイスシールド)

 - 場合により患者にもマスクの着用

 - カーテンなどを使用した区分化も有効

- 空気予防策

 - N95マスクあるいはそれ以上の性能のマスクの着用

手洗い

- 一処置一手洗い
- まず洗淨、次いで消毒
- 手袋をしていても忘れずに(手洗いをして30分以上経った手は洗う以前と同じくらい不潔
- 通常の生活で3時間洗っていない手は、3日間全く手を洗っていないのと同じくらい菌が繁殖している

正しい手洗い出来ていますか？



1. 両手のひらをよくこすります



2. 手の甲もよくこすります



3. 指先は特に入念に洗います



4. 指の間もよく洗います



5. 親指と手のひらもよく洗います



6. 手首も忘れずに洗います

■手洗いのミスの生じやすい部位

●手の甲



●手掌(手のひら)



★手洗いおよび手指消毒に際しての注意すべき手指エリア

□ 普通に注意を要する箇所

■ 比較的注意を要する箇所

■ 最も注意を要する箇所

ユニバーサルプレコーション実践マニュアル
—新しい感染予防対策—

医療の安全に関する研究会・安全教育分科会編
南江堂 1999より 引用

手洗いの洗い残し

手洗い検査機
貸し出ししてます！



親指や指先、
指の股などの
洗い残しに注意！

高齢者施設での感染症管理

- 入所時の健康状態の把握

入所前には、健康診断等を受けていただき、健康状態や感染症に関する既往歴を確認しておくことが大切です。

- 入所後の健康管理

入所者の健康状態を記録し、早期に体調の悪い人がいないかを把握することが必要です。

- ①吐き気・嘔吐の有無、回数及び内容(性状)・量
- ②下痢の有無、性状・回数
- ③発熱時の体温

感染性胃腸炎(ノロウイルス)について

ノロウイルスは、冬季を中心に発生する感染性胃腸炎の原因となるウイルスです。

- 潜伏期間：1～2日
- 症状：吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱など
(症状は1～2日で軽快するが、ウイルスは1～2週間程度ふん便とともに排出される)
- 感染経路：経口感染、接触感染、飛沫感染
 - ①ウイルスが付着した食品を食べて感染
 - ②二枚貝に蓄積し、加熱不十分で喫食
 - ③手に付着したウイルスが口から体内へ
 - ④残った嘔吐物・ふん便が乾燥して口に入る

嘔吐物の処理セット

ブラックライト貸し出しています！

塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)
※適正濃度に希釈して使用する
バケツ、500ml又は2Lペットボトル

ビニール又はゴム手袋、エプロン、
マスク、ビニール袋、
拭き取るための布やペーパータオル



各フロアー毎に常に用意しておきましょう。

ノロウイルスに効果のある消毒液の作り方

- 嘔吐物や便が直接付いた衣類等の消毒 : 0.1% (1000ppm) 次亜塩素酸ナトリウム

家庭用漂白剤 原液
ペットボトルキャップ
2杯 (10ml)

+

水道水
500ml ペットボトル容器 1本

ペットボトルキャップ
は、1杯約5mlです。



500ml

- 床、トイレのドアノブ、便座等の消毒 : 0.02% (200ppm) 次亜塩素酸ナトリウム

家庭用漂白剤 原液
ペットボトルキャップ
2杯 (10ml)

+

水道水
2L ペットボトル容器 1本



2L

保健所への報告が必要な場合

インフルエンザや感染性胃腸炎等の方が多数発生した場合は、保健所へ早めにご連絡ください。

(報告要件)

- ① 同一の感染症もしくは食中毒による又はそれらによると思われる死亡者又は重篤な患者が1週間以内に2名以上発生した場合
- ② 同一の有症状者等がある時点において10名以上又は全利用者の半数以上発生した場合
- ③ ①②に掲げる場合のほか、通常の発生動向を上回る感染症の発生が疑われ、特に管理者等が必要と認めた場合

肺結核について

[症状]

咳、痰、発熱、胸痛、倦怠感、血痰、寝汗等

* 高齢者は咳などの症状がないこともある

[感染の形態]

空気感染（飛沫核感染）

肺結核について

感染

結核菌が体内に潜伏し、封じ込められたまま活動していない状態のこと。

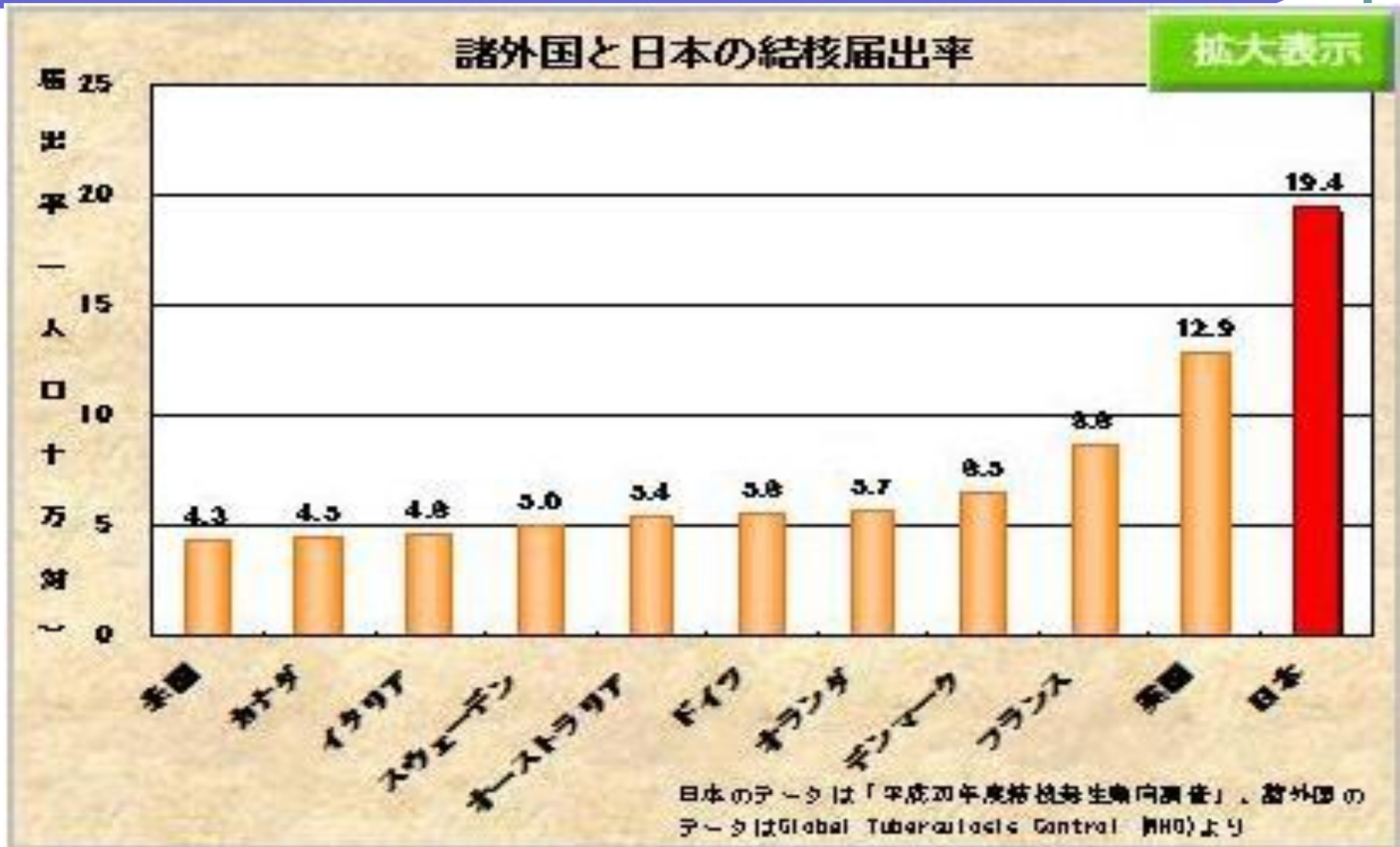
発病

感染した後、結核菌が活動を始め、菌が増殖して体の組織を冒してゆくこと。

症状が進むと、せきや痰(たん)と共に菌が空気中に吐き出される(排菌)ようになる。

うつること(感染)と結核になること(発病)
は違います

諸外国と日本の結核届出率



結核菌が好む環境

- 閉鎖的な空間
- 換気が悪い空間
- 日当たりの悪い環境

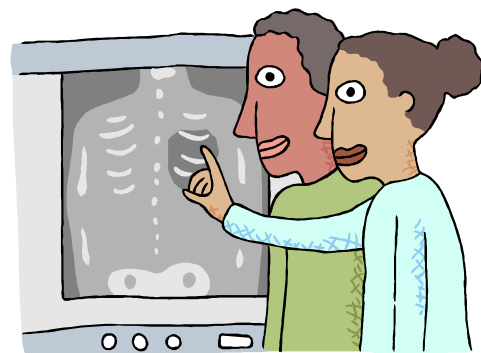
結核患者が発生したら

- あわてず、まずは保健所へ相談を。
- 咳等の風邪症状がある人は、結核も疑って受診を。

接触者健康診断

結核患者が発見された際には、患者の周囲の人々を対象に接触の程度等の調査を行ない、必要な方へ『**接触者健康診断**』をご案内しています。

- 胸部レントゲン検査
- クオンティフェロン検査(QFT検査)
- ツベルクリン反応検査



DOTS(直接服薬確認法)

患者さんが結核を確実に治療するために、病院と保健所等が連携して、患者さんの服薬のお手伝いをしています。

結核の治療には、患者さんを取り巻く家族や施設等の協力も重要です。

結核になった人に対して

- 結核は基本的に治る病気です。
- 排菌しても入院治療し退院すれば周りの人に感染させることはありません。
- 服薬は医師が終了と言うまでしっかり飲みましょう。

利用者や同僚等が結核になっても、戻ってきたときは、温かく迎えてあげましょう。

結核を予防するには

- 風邪に似た症状が続いたら早めに受診しましょう。
- 1年に1回は胸部レントゲン検査を受けましょう。
- 栄養のバランスのとれた食生活を心がけましょう。
- 禁煙をめざしましょう。
- 疲労を避け、ストレスを解消する方法を見つけましょう。



今後とも、よろしく申し上げます。

<連絡先>

川越市保健所 保健予防課 感染症担当

〒350-1104 川越市小ヶ谷817-1

電話：049-227-5102

FAX：049-227-5108